

平成 29 年度第 1 回鹿児島市交通事業経営審議会 会議概要

○ 日程・場所・出席者

(日 程) 平成 29 年 5 月 22 日 (月) 10:00~11:15

(場 所) 交通局 3 階 第 2 会議室

(出席委員) 委員 7 名

(事 務 局) 交通局総合企画課

○ 議事・配付資料

- (議 事)
- (1) 会長及び副会長の選任
 - (2) 経営健全化計画及び第二次経営健全化計画の概要について
 - (3) 平成 29 年度鹿児島市交通事業特別会計予算について
 - (4) 新たな定期券制度について
 - (5) その他

- (配付資料)
- 資料① 鹿児島市交通事業経営審議会委員一覧
 - 資料② 鹿児島市交通事業経営審議会規程
 - 資料③ 鹿児島市交通事業経営健全化計画（平成 22~28 年度）の概要
 - 資料④ 平成 29 年度鹿児島市交通事業特別会計予算
 - 資料⑤ 新たな定期券制度等の概要について

別冊 1 第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画

別冊 2 鹿児島市交通事業経営健全化計画重点取組項目等の平成 28 年度実施状況

別冊 3 平成 29 年度鹿児島市交通事業特別会計予算書

○ 協議の概要

(1) 会長及び副会長の選任

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>会長に古川 恵子氏、副会長に林 亮輔氏を選任。</p> <p>(委員からの自薦・他薦がなく、両氏についての事務局案を委員が承認することにより決定。)</p>

(2) 経営健全化計画及び第二次経営健全化計画の概要について

	委員の主な意見・質疑等
1	<p>資料③の増収対策に「新たな広告媒体」とあるが、この内容はどのようなものか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>健全化計画における新たな広告媒体として設定したものとしては、電車車体の広告で、全面広告ではない長方形の側面広告や、連接式超低床電車である7000形の車内広告を一社だけの広告に統一した、いわゆる「ジャック広告」などがあった。</p>
2	<p>第二次健全化計画の中の16ページに「協議の場」とあるが、市に設置を要望したこの「協議の場」の進捗はどのような状況か。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>現在、「協議の場」の設置に向けての課題整理等を行っているようであるが、その中で、交通局の事業の抜本的見直しを民間バス事業者等と協議していくのはなかなか厳しいのではという意見もあるようである。</p> <p>例えば、バスロケーションシステムの構築やICカードの導入など、これから皆で作りに上げていくものについては「協議の場」の議題として適しているかもしれないが、競争状況にあるバス路線の問題等は、それになじまないのではないかという方向にあるようである。</p>

委員の主な意見・質疑等	
3	<p>乗客数の推移について、市バスの乗客数が減る中、市電は増加という状況である。市バスの乗客の減少理由としては、少子高齢化による人口減少等が挙げられているが、市電の乗客数が伸びているのにはどのような理由があると考えているか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>市電は現金での利用者の割合が多く、これは、観光客の利用が多いことによるものと考えられる。理由としては、系統が2つで分かりやすく、鹿児島中央駅から天文館などの中心市街地を運行しているということがあると考えている。</p> <p>また、市電が環境にやさしいことや、路面電車が全国的に見ても珍しいものとなっていること等もあるのではないかとと思われる。</p>

(3) 平成29年度鹿児島市交通事業特別会計予算について

委員の主な意見・質疑等	
	(質疑なし)

(4) 新たな定期券制度について

1	<p>市電定期を全線利用可能とすることについてであるが、区間を指定せずに全線利用可能とすることで、これまで料金を支払っていた区間が定期で利用できることとなり、その分は減収となるわけである。これは増収対策としての取組とあるが、増収になる試算または見込というのはあるのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>新制度の料金についても現在検討しているところであるが、ご指摘の減収を考えても、年間で1千万円程度の増収になるものと考えている。</p>
2	<p>シニア定期も新しい制度であるが、元気な高齢者がより外出しやすくなる制度と考えてよいのか。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>以前の交通局モニターから、「リーズナブルな高齢者向けの定期券制度」についての要望があった。また、運転免許証の自主返納の促進等も言われている中、70歳以上は敬老パス制度があるが、70歳未満の方にも利用しやすい定期券制度として考えたものである。</p>

(5) その他

1	<p>電停の案内表示のリニューアルをするとのことであるが、デザインを検討する際には、高齢者等に事前に見てもらおうとか、例えば、日差しの強い日は白内障の方などは判読しづらい場合もあると思われるため、より多くの方の見え方などもシミュレーションしたうえで決めてもらえたら、と思う。</p> <p>また、大型船が寄港したときであったが、中国からの観光客と思われる市電の乗客が、降りる際に一日乗車券が欲しいということを経営者に話していた。経営者の方は丁寧に対応していたが、乗客のスマートフォンの画面の表示で、ようやく求めるものが分かったようであった。このような場合にもう少し、スムーズな対応ができるような方策はないかと思う。(乗車券販売などについては)今後、マリンプォートには新たな建物も建設されるようであるため、大型船で寄港する外国人観光客への利便性向上としての対応の余地があるのではないかと考える。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>利用者が誤った電車に乗るのを防ぐため、やはり、乗る前の電停の案内表示が、より分かりやすくあるべきだと考えている。</p> <p>また、マリンプォートにおいては新たな建物ができるということであるが、外国人観光客には、市電・市バスに加え、桜島フェリー等も利用できる「ウェルカムキュート」というよりお得な乗車券もあるため、それらの販売方法など、外国人観光客にとってより利便性が向上するような方法も検討したい。</p> <p>現在、電車の経営者が外国人観光客に対応する場合は、よく尋ねられる質問とその答えを外国語と日本語で表示したものを車内に準備しており、それを見せて対応しているが、その記載内容なども検討し、必要な見直し等も行っていきたい。</p>
2	<p>バス停についてであるが、市役所前バス停は、行く方向は同じであるのに乗り場が違い、特に高齢者等にとって分かりにくいものとなっている。同じ方面に行くバスの停留所は、同じ位置にできないものかと思う。</p> <p>(事務局回答)</p> <p>共同バス停においては、方面別等によって乗り場を分けている状況にある。例えば、11番線と12番線はどちらも鴨池方面に行くものであるが、11番線は中央駅経由、12番線は大門口経由というように途中の経由地によっても乗り場を分けている。これは、このほうがより利用者に分かりやすいと思われるために実施しているが、終点の方面で見た場合には逆に分かりにくいという状況になっている。今後、より分かりやすい方法を考えていきたい。</p>

3 利用者が持っている疑問や、ニーズなどをどのような形で把握しているのか。第二次健全化計画の最後のページに交通局モニター15名の記載があるが、このモニターから意見をもらっているのか、それとも、モニター以外の利用者がアンケートに答えるような制度をとっているのか。

(事務局回答)

交通局モニターについては、「モニター通信」により感想や意見などをお寄せいただいているところである。

モニター以外の利用者については、アンケートは実施していないが、メールや書面で寄せられるご意見について管理し、業務改善に生かしている。